

ひろしまの遺跡

第133号

県内初！ 弥生時代の水田跡

— 神田（じんてん）遺跡（竹原市） —



弥生時代の水田跡（南東から）

神田遺跡は竹原市新庄町に所在し、遺跡の北側は北東の丘陵から続く南西向きの傾斜の緩やかな斜面となっています。

遺跡（調査区）の北部で、弥生時代の水田跡を確認しました。確認した水田跡は平坦な水田と畔です。水田は自然の地形に合わせて、階段状に設けられていました。また、同じ標高の水田でも畔を設けて、区画していました。一枚一枚の水田を小さく区画することで、水の管理を行い易くしたものと思われます。弥生時代の水田跡の発掘調査例は全国で100を超えていますが、県内で確認されたのは今回の調査が初めてです。確認された水田跡の範囲は狭いのですが、県内で確認できた意義は大きく、貴重な調査例となりました。

また、水田跡の北（斜面上側）には弥生時代の竪穴建物跡が確認されており、弥生時代の集落跡と生業跡が同一遺跡で確認できました。同時期かどうかは今後の整理作業や理化学分析により検討してまいります。弥生時代の人々の暮らしをリアルに感じることができました。（渡邊 昭人）

発掘調査速報

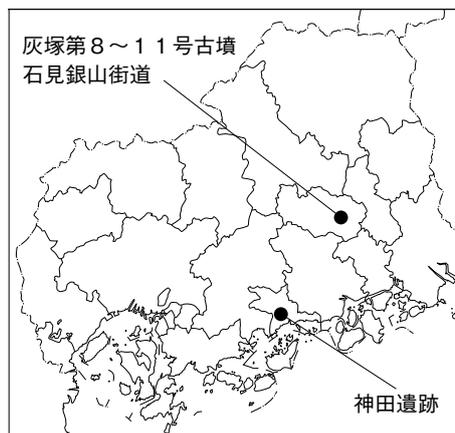
神田遺跡（竹原市新庄町）

調査期間 令和6年4月8日～令和7年2月7日

神田遺跡は、一般国道432号（竹原バイパス）道路改良事業に伴って発掘調査を実施しました。調査範囲は一般国道432号の東に隣接する、南北約240m、東西10～20mの南北に長い帯状の範囲で、面積は約3,900㎡です。このうち、約2,400㎡を今年度発掘調査しました。

調査の結果、弥生時代から現代までの遺構を確認しました。最も北に位置する調査区（1区）では、遺構面を4面確認しました。第1・2遺構面は近世以降の水田跡あるいは畑跡と判断されます。第3遺構面では中世の掘立柱建物跡1棟、弥生時代の竪穴建物跡2軒や土器だまり1基を確認しました。掘立柱建物跡は桁行5間以上、梁行1間以上で、総柱建物の可能性があります。竪穴建物跡は平面形がいずれも円形気味の多角形で、このうち1軒では壁や床面で炭化材が出土しており、焼失家屋と考えられます。土器だまりは弥生土器が焼土や炭化物とともに廃棄された状態で検出されました。出土遺物に日常生活では使用されることのない複合口縁の壺が含まれることから、祭祀に伴い廃棄されたものと考えています。なお土器だまりから出土した土器の量はコンテナ約26箱分でした。この土器だまりの下（第4遺構面）で、弥生時代の水田遺構を発見しました。ところで第2遺構面及び第4遺構面の上には石を大量に含んだ土層が厚く堆積していました。中には0.4tを超えるような石も含まれています。これらの土砂は背後の丘陵からの土石流によってもたらされたものと判断されます。

ほぼ中央に位置する調査区（2区）の遺構面は1面で、北端や南端で掘立柱建物などの遺構を確認しました。一方、中央では畔状の高まり2基や石列1基以外には遺構を確認できませんでした。畔状の高まりは東に向かって半円状の弧を描き、その周辺には人の足跡が見られました。遺構検出面には小礫が含まれており、耕作地には不向きな土壤です。2区の土地利用については類例を調査するなど検討が必要です。なお、2区で確認された遺構の時期は出土遺物が少なく明確ではありませんが、中世の可能性が大きいものと考えています。（渡邊 昭人）



1区 土器だまり（西から）



1区全景 水田遺構（南から）



1区 土石流の堆積状況（北西から）



灰塚第8～11号古墳（世羅郡世羅町赤屋）

調査期間 令和6年7月22日～12月13日

主要地方道甲山甲奴上市線道路改良事業に伴い、発掘調査を実施しました。灰塚第8～11号古墳は、東西に延びる尾根の嶺に立地する古墳で、合計11基から構成される灰塚古墳群の一部となります。特に、灰塚第2号古墳は未調査ではありますが、墳丘観察により、全長約35mの帆立貝式古墳と推定されます。また、灰塚第1号古墳は全長約22mの円墳と考えられ、第2号古墳と共に、灰塚古墳群の築造背景を探るうえで重要な古墳です。

灰塚第8号古墳は、直径約9m、高さ約1mの円墳で、埋葬施設は確認できませんでした。出土遺物は、盛土内から出土した石鏃や、墳丘や周溝で表採した弥生土器片、古銭です。

灰塚第9号古墳は、直径約7m、高さ約0.6mの円墳と考えられます。墳丘盛土及び埋葬施設は確認できませんでした。出土遺物は攪乱土内から須恵器片や弥生土器片が出土しています。

灰塚第10号古墳は、直径約8m、高さ約0.8mの円墳と考えられます。墳丘盛土は数cm確認できただけで、埋葬施設は確認できませんでした。出土遺物は、攪乱土内から須恵器片と、調査区外から弥生土器片と土師質土器片を表採しています。

灰塚第11号古墳は、直径約10m、高さ約1mの円墳です。基盤層を掘り込んで埋葬施設が構築されていました。出土遺物は、鉄剣、鉄鏃、弥生土器片、古銭（永楽通宝の破片-1408年初鑄）が出土しました。鉄鏃1点を除き鉄剣・鉄鏃は、埋葬施設上面よりも0.4m程度上方で出土しており、攪乱によって原位置を動いた可能性が高いです。鉄鏃は形や大きさから5世紀後半のものと考えられます。また弥生土器片は盛土内から出土し、その形態から弥生時代後期のものと考えられ、古墳の近辺に弥生時代の遺構があった可能性があります。

灰塚第11号古墳は、出土遺物の特徴から5世紀後半に築造され、灰塚第8～10号古墳もそれに近い時期に築造されたと推定されます。（山川聡大）



灰塚第8～11号古墳空中写真
(上が北東、左から第8号古墳)



灰塚第11号古墳鉄剣出土状況（北東から）



灰塚第11号古墳墳丘検出状況（東から）



灰塚第11号古墳埋葬施設（南東から）



石見銀山街道（世羅郡世羅町赤屋）

調査期間 令和6年7月22日～12月13日

灰塚第8～11号古墳と同じく主要地方道甲山甲奴上市線道路改良事業に伴い発掘調査を行いました。

石見銀山街道は、17世紀初頭に石見銀山から銀を運び出すために整備された街道で、石見銀山から尾道まで約130kmを結んでいました。これまで島根県内の石見銀山街道は、発掘調査などが行われてきましたが、広島県内での石見銀山街道の発掘調査は初めてです。

調査は、街道の切通し部に2ヶ所（第1・3区）、平坦な道に1ヶ所（第2区）、合計3か所に調査区を設定し行いました。第1区では、道幅が約2.2mであることがわかりました。高い法面は高低差約2.5m、低い法面は約0.8mです。低い法面の頂部では、遺構の可能性が考えられる集石を確認しました。第2区では、道幅が約2.8mであることがわかりました。法面の高低差は約2.2mです。古代にさかのぼる可能性のある土師器片を表採しています。第3区では、道幅が約2.2mであることがわかりました。高い法面は高低差約4mで、低い法面は約1.1mです。

今後は、島根県側の調査事例や近世の街道の調査事例などと比較しながら、遺構の検討を行います。（山川聡大）



第1区調査前（南から）



第1区調査後（南から）



第2区調査前（南東から）



第2区調査後（南東から）

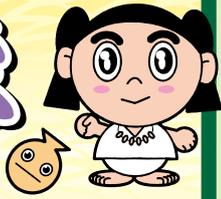


第3区調査前（南から）



第3区調査後（南から）

考古学 アラカルト 61



折り曲げられた鉄器のナゾ

令和5（2023）年に発掘調査が行われた高猿第2号古墳（安芸高田市吉田町）で、箱式石棺のそばから鉄製のヤリガンナが出土しました。

石棺蓋石の周辺の土を掘り下げている途中で顔を覗かせたヤリガンナ。その輪郭を慎重に掘り出すと…なんと、茎部の中央あたりで90°に近い角度で折れ曲がっていたのです。土圧のせいでも、輪郭を出す作業の途中で曲がったわけでもありません。このヤリガンナは、どうやら副葬する時に人為的に折り曲げられたようです。

実は、高猿第2号古墳のヤリガンナのように、鉄器を折り曲げた状態で副葬する事例は日本各地で確認されています。

これまでの研究では、鉄器を折り曲げて副葬する事例は、関東地方から九州中部までの範囲で確認されており、特に西日本を中心に事例が多いことがわかっています（長谷川2001・清家2002）。また、これらは弥生時代終末期から古墳時代前期にかけて盛んに副葬され、その種類は、鉄剣・ヤリガンナを中心に鉄刀や鉄鏃など様々です。

広島県内で見つかった折り曲げ鉄器

このような出土例は、広島県でも確認されています。

県内の出土例を挙げると、石鎚山第1号古墳（福山市）、石鎚権現第5号古墳（福山市）、道上第5号古墳（福山市）、新宮第2号古墳（安芸高田市）、矢谷墳丘墓（三次市）があります。これらの墳丘墓・古墳には、いずれも折り曲げられたヤリガンナが副葬されていました。



高猿第2号古墳 SK 2 ヤリガンナ出土状況



高猿第2号古墳出土 ヤリガンナ

高猿第2号古墳と同様に、安芸高田市に所在する新宮第2号古墳では、箱式石棺内で遺存していた人骨の右上腕骨の隣から、鉄銚とともに折り曲げられたヤリガンナがみつかっています。

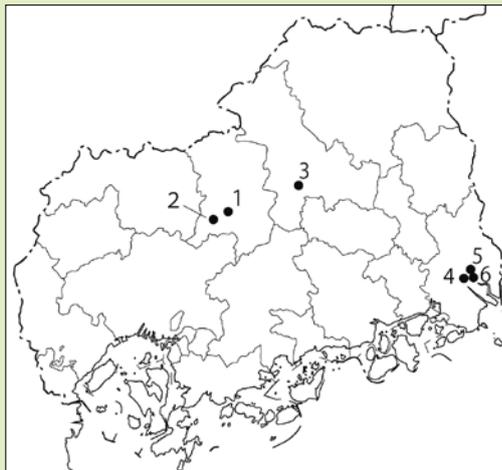
道上第5号古墳でも、ヤリガンナのほかに鉄剣2点や刀子1点が折り曲げられた状態で見つかっており、いずれも刃部を大きく折り曲げていました。1基の埋葬施設から複数の折り曲げ鉄器が見つかることは珍しく、注目される出土例です。

このように、出土例は少ないですが、広島県内でも県東部（備後地域）を中心に鉄器を折り曲げて副葬する習俗があったことがうかがえるのです。

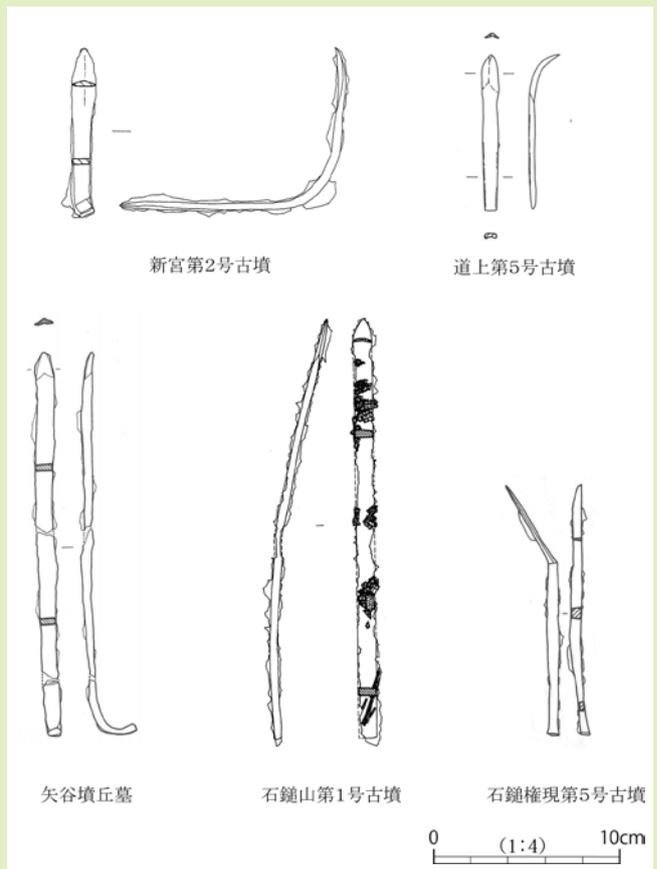
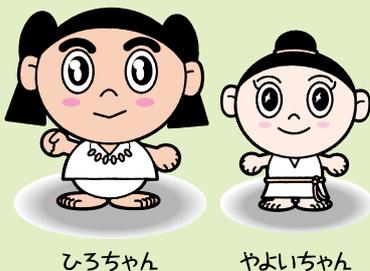
なぜ鉄器を折り曲げる??

では、なぜ鉄器を人為的に折り曲げて副葬するのでしょうか。これについては諸説あり、従来の研究では、鏡や土器を破碎して副葬する行為と同様に、そのものの機能を消失させることに意味があったのではないかという考えもありますが、その答えははっきりとしていません。

鉄器を折り曲げて副葬するという行為は、西日本を中心にみられることから、一部に限って広まった習俗のようです。明確な理由はわかりませんが、鉄器を折り曲げるという行為には、残された人々の死者を弔う想いが反映されているのかもしれません。(岸本晴菜)



- | | |
|-----------|-------------|
| 1 高猿第2号古墳 | 4 石鎚権現第5号古墳 |
| 2 新宮第2号古墳 | 5 石鎚山第1号古墳 |
| 3 矢谷墳丘墓 | 6 道上第5号古墳 |
- 折り曲げ鉄器出土の遺跡位置図



広島県出土の折り曲げ鉄器の例

引用・参考文献

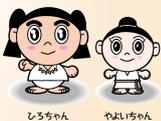
清家章2002「折り曲げ鉄器の副葬とその意義」『待兼山論叢』史学篇36 大阪大学大学院文学研究科
 長谷川達2001「剣を折る・鏡を割る」『北近畿の考古学』両丹考古学研究会・但馬考古学研究会

令和6年度は5冊の調査報告書および活動報告令和5年度ひろしまの遺跡の記録集を刊行します。頒布は令和7年4月1日より行います。ご希望の方は当室までご連絡ください。

	書名	市町名	概要	頒価
埋文報告 第94集	中山城跡	福山市	中山城跡は中世遺跡として著名な草戸千軒町遺跡の南西端に隣接する。西斜面及び東斜面の発掘調査を実施し、堅堀等の山城に伴う遺構は確認できなかったが、頂部の郭から流れ込んだと思われる出土遺物から、草戸千軒町遺跡とほぼ同時期に機能していた山城であったことが明らかになった。また、出土した局部磨製石斧は縄文時代草創期の御子柴型とみられ、当時の交流を考えるうえでも貴重な資料となった。	700円 (送料別)
埋文報告 第95集	高猿第2号古墳	安芸 高田市	長方形を呈する一辺6～7mの古墳で、築造時期は古墳時代前期と推測される。墳丘西側に区画溝、墳丘東側に石列を施している。埋葬施設は、箱式石棺3基を検出した。その規模から成人棺2基・小児棺1基と考えられ、うち成人棺1基の棺内から人骨が出土した。小児棺の棺内から鉄製刀子、成人棺1基の棺外から鉄製ヤリガンナが出土した。ヤリガンナには、人為的に折り曲げられた痕跡がうかがえた。	400円 (送料別)
埋文報告 第96集	正藤遺跡	福山市	計176基の遺構を検出した。弥生時代後期を中心に、各時期の集落跡が重なった複合遺跡である。幅約2.3mの溝SD072から多量の土器が出土した。土器の型式的特徴、放射性炭素年代測定の結果等から、弥生時代後期後葉に埋まったと推測される。過去の試掘調査時に出土した絵画土器片は黥面表現がある資料としては県内初例であり注目される。	1,000円 (送料別)
埋文報告 第97集	沖の城跡	東広島市	沖の城跡は主郭の北側が部分的に残っており、城跡に伴う遺構等は確認できなかった。江戸時代の文献から南(海側)に延びる丘陵上に築かれていたと想定できる。調査前に池であった船繋場と想定されていた地点からは、砂層内より舟形木製品や下駄・硯片等が出土している。砂層下層で確認した溝によって区画された遺構(SX1)は、船の係留施設であった可能性が考えられる。	700円 (送料別)
埋文報告 第98集	二才原遺跡(第2次調査)	府中市	溝状遺構2条やピット44基など計50基の遺構を検出した。出土遺物から、弥生時代中期～後期を中心とする時期の遺構と考えられる。遺構面は大部分が削平されていると推測され、第1次調査で確認された奈良・平安時代の遺構との関連は明らかにできなかった。	500円 (送料別)
活動報告 第13集	令和5年度「ひろしまの遺跡を語る」記録集		名古屋市立大学高等教育院教授・奈良大学特別教授 千田嘉博さんによる講演「埋蔵文化財調査と城郭考古学」と、令和5年度に当事業団が調査した遺跡についての発掘調査報告の全記録。	500円 (送料別)

あとうき

今年度調査を行った遺跡のうち、二才原遺跡・神田遺跡・福原2号遺跡は現地で報告会を行い、調査地点が山の上となる灰塚古墳群・石見銀山街道は調査後に地元の自治センターで報告会を行いました。いずれも多くの方々にご参加いただきました。地域の方、そして県民の皆様にご報告を聞いていただく機会を今後も設けていきます。



(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第133号

発行日 令和7年3月28日
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4-8-9
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <https://www.harc.or.jp/>
E-mail maibun@harc.or.jp
発行 (公財)広島県教育事業団
印刷 株式会社ニシキプリント

